

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞

# 次代の担い手と共に 今庄宿の魅力と町並みと賑わい

福井県南越前町 特定非営利活動法人今庄旅籠塾

## 1. 今庄宿が直面する課題と活動概要 まちなみ消滅の危機とその解決

伝統的町家が立ち並ぶ北國街道今庄宿は「宿場のまち」「鉄道のまち」として栄えたが、近年の人口減少や空き家増加で歴史的景観が崩れつつある中、江戸後期築の旧旅籠若狭屋が取り壊されることになった。今庄宿のシンボルを解体から救うことがきっかけで活動が始まり、歴史的町並み保存に留まらず、文化の継承、住民生活の支援にまで及んで今日に至っている。

本法人独自の活動手法である、建築やデザインを学ぶ学生と共に行う改修（町家改修と宿泊体験「教育支援事業」）は、まちづくりへの若者の参加を促し、次代を担う人材の育成につながっている。江戸期の旅籠を多目的文化施



改修を終えた「旧旅籠若狭屋」

設に、昭和期の住宅をカフェに、明治期の弁当屋を資料館、物品販売所に改修・活用する活動は町行政に影響を与えると同時に、住民によるまちづくりの先導役にもなっている。

## 2. どのような活動なのか「歴史的町並み保存を通じた豊かな暮らしを支援

私たちの活動は、歴史的町並み保存を通じた豊かな暮らしの支援である。解体予定の町家の持ち主に対し修復・維持を勧め、場合によっては持ち主に代わり建物の改修を行う。価値観や課題の共有が不可欠との発想で、改修作業は学生と共に、活動を担う人材育成や伝統的建築技術の継承を支え、また、起業者と共に活用も行う。活動構成は、①町





町家の外壁板張り



改修現場で指導を受ける高校生

家修復と教育支援、②町家活用と起業者支援、  
③文化・芸術活動、④調査・研究業務等で成り、  
地域や行政への協力も行う。

①旧旅館若狭屋は多目的文化施設とそば屋  
に生まれ変わって宿場の賑わいを呼び戻し、②  
昭和初期の一般住宅山田家は、安らぎのカフェ  
になり、③江戸から明治まで旅館と駅弁屋で  
あった大黒屋は、地元農産品販売店および資料  
館に改修したことで、町並み景観を維持すると  
同時に住民の豊かな生活支援に寄与している。

### 3. 活動の広がりや深まり 地域交流の 場ができ、住民の意識が変わった

多様に活用される町家が地域交流の場として  
定着し、それによる賑わいを目の当たりに  
した住民に、町家利活用の考えが芽生え、町  
並み保存に対する意識が変わった。

多目的文化施設としての若狭屋は、多彩な  
イベントや講演、研究会等、住民が芸術や新  
しい考えに触れる機会をつくり、それが継続  
されて定着してきた。また、カフェとしての  
山田家は、地域住民や高齢者のもとより、県  
内外からの若い方々も共に集う古民家カフェ  
として、賑わいが日常になっている。

このような活動は行政にも影響を与え、町  
並み景観の保全と賑わいを目的に「今庄宿プ  
ロジェクト事業（平成26～29年）」が実施され、



若狭屋での歌曲コンサート



住民や県内外の客で賑わう山田家のカフェ

「今庄宿まちづくり推進協議会（平成30年）」が組織されるなど、本取り組みは地域に広がりがつつある。さらに、県の教職員研修講座が、「教育と地域連携」をテーマに若狭屋で行われるなど、学校教育を通して広がる仕組みもつくられた。

#### 4. 活動から学んだことⅡ先人が積み重ねた知恵と地域資源は活動の道標

町並み調査や町家改修の際に発見された先人の知恵や工夫の跡を貴重な道標として、私たちは活動の方向を探っている。

旧齋藤家住宅は、登り梁と袖壁で深い軒を支える伝統的な町家である。外壁は、黒漆喰、白タイル、モルタル洗い出し、ドイツ壁、銅板張りとバラエティーに富み、左官と板金職人の高い感性、技量に裏打ちされた仕業の競演が鑑賞できる。

町家前面に設置されている出格子は、外と内の程良い距離感を保ち、道路に面する座敷でもプライバシーが確保されている。夏場は表通りから裏庭への風の通り道を作り、このコロナ禍においても密になることなく自然を感じながら住まえる知恵である。

旧昭和会館は会議室やホール、隣接する静心閣は座敷と厨房を備え、国鉄今庄駅近くの利便性ゆえ、コンベンションが多数誘致され

た。大型複合施設がない今庄で、当時の旅館、飲食、遊技場などが連携してまちぐるみで客をもてなしたことが分かる。

建物や地域が持つ物語性を、町家改修に活かすことは非常に大切なことである。旧大黒屋は、宿場期、旅籠に始まり、明治鉄道期には弁当屋として今庄宿の歴史と共に歩んだ一級品であり、大隈重信や泉鏡花、山本周五郎などの滞在記録も残る。また、住民に親しまれた建物であることから、今庄宿内の八百屋3店舗廃業後の「買い物難民」のための野菜

や日用品販売店への改修を進めた。さらに、文化・芸術との縁を残すべく、住民が集う展示館併設を構想している。

#### 5. 町並みの保存Ⅱ人の魅力を見つけて磨く力

私たちは、今庄様式建築を担った大工集団の頭、島崎文四郎の記録集「越前今庄宿棟梁大工の記録・年代録見聞記」、「今庄郷棟梁大工島崎文四郎家文書」等を刊行し、今庄宿の魅力の根拠を整備してきた。伝統的町並み保存に大切なことは、その魅力の発見であろうか。町並みの魅力とはものの魅力の他に、それを成した人の魅力でもある。島崎棟梁をはじめ、今庄生糸で世界を目指した実業家、田中和吉、齋藤繁治郎、今庄の人と暮らしを撮り続けた写真家、坂野進、ヤシヤゲンゴロウを調べ続けた学者、奥野宏等、幾多の先人の足跡に気づき理解できる私たちの力量、またそれを讀める豊かな心が町の魅力を磨くことに必要と考える。

町並み保存活動は、人をまず第一に考え、住民そして次代の担い手一人ひとりを大切にするとところから始めなければならないのかもしれない。

（特定非営利活動法人今庄旅籠塾

事務局長 北村泰生）



大黒屋の看板除幕式